

2021年度 社会学部 1年生のみなさんへ 【導入ゼミナールⅠ・Ⅱ】

1年次必修科目である「導入ゼミナール」では、「Ⅰ・Ⅱ」のそれぞれに下記のリストから1冊がテキストとして指定されています（赤字は2017-20年度、青字は2021年度導入ゼミナールで実際にテキストに使われたもの）。「導入ゼミナールⅠ」では、社会科学の入門書的な文献を、「導入ゼミナールⅡ」では、社会科学の古典と呼ばれる文献を読みます。指定されているテキストはクラスごとに異なりますが、このリストにある文献は、これから社会学部での学修を始めるみなさんにぜひ読んでおいていただきたいものばかりです。ぜひ図書館等で手に取ってみてください。

【注意】この文献リストは、「導入ゼミナールⅠ・Ⅱ」用です。1年次必修科目「社会研究の世界」で課す中間レポート・期末レポートを作成する際に読むべき書籍をリストしたものではありません。これらのレポートの作成にあたっては、“2021年度「社会研究の世界」指定文献”に掲げた書籍を用いること。

導入ゼミナールⅠ

- ジグムント・バウマン&ティム・メイ『社会学の考え方 第2版』ちくま学芸文庫、1512円
- 本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、864円
- 市野川容孝『社会』岩波書店
- 竹沢尚一郎『社会とは何かーシステムからプロセスへ』中公新書、821円
- 吉村仁『素数ゼミの謎』文芸春秋、1543円
- 吉田裕『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』中公新書、820円
- 吉田裕『日本の軍隊ー兵士たちの近代史』岩波新書、864円
- 吉田裕『アジア・太平洋戦争』岩波新書、886円
- 木村元『学校の戦後史』岩波新書、842円
- 安丸良夫『神々の明治維新』岩波新書、799円
- 渡辺尚志『百姓の力 江戸時代から見える日本』角川ソフィア文庫、864円
- 吉見義明『従軍慰安婦』岩波新書、864円
- 田中宏『在日外国人ー法の壁、心の溝 第3版』岩波新書、907円
- 成田龍一『近現代日本史と歴史学ー書き替えられてきた過去』中公新書、929円
- 川北稔『世界システム論講義ーヨーロッパと近代世界』ちくま学芸文庫、1188円
- 伊豫谷登士翁『グローバリゼーションとは何かー液化化する世界を読み解く』平凡社新書、778円
- 鬼頭秀一『自然保護を問いなおすー環境倫理とネットワーク』ちくま新書、886円
- 橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、900円
- 山口裕之『「大学改革」という病：学問の自由・財政基盤・競争主義から検証する』明石書店、2500円
- 宮地尚子『震災トラウマと復興ストレス』岩波ブックレット
- 山田肖子『国際協力と学校ーアフリカにおけるまなびの現場ー』創成社新書、定価864円
- 橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、972円
- 矢作 弘『ロサンゼルスー多民族社会の実験都市』中公新書
- 中北浩爾『自民党ー「一強」の実像』中公新書、950円
- ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫、1566円
- 橋本健二『アンダークラス：新たな下層階級の出現』ちくま新書、885円
- 角山栄『茶の世界史：緑茶の文化と紅茶の社会』（改版）中公新書、820円
- 貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、907円
- P. L. バーガー（水野・村山訳）『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1,296円

岩田正美『現代の貧困：ワーキングプア・ホームレス・生活保護』筑摩新書、842円
梅森直之『ベネディクト・アンダーソン、グローバリゼーションを語る』光文社新書、756円
峯陽一『2100年の世界地図 アフラシアの時代』岩波新書
佐藤郁哉『大学改革の迷走』ちくま新書、1,320円
小熊英二『日本社会のしくみ—雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書、1430円
齋藤純一『公共性』岩波書店、1512円
宮地尚子『トラウマ』岩波書店、907円
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、799円
大門正克『語る歴史、聞く歴史—オーラル・ヒストリーの現場から—』岩波新書、929円
伊藤公一『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書、842円
飯島渉『感染症の中国史—公衆衛生と東アジア』中央公論新社、902円
鷲田清一『「聴く」ことの本質』筑摩書房、1100円
筒井淳也『仕事と家族 - 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中央公論新社、858円
斎藤純一『公共性』岩波書店、1650円
石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、1540円
ジャン＝ポール・ヴィレーム『宗教社会学入門』白水社（文庫クセジュ、1046円）
筒井淳也『社会を知るためには』筑摩書房、924円
島蘭進『国家神道と日本人』岩波書店、924円
川平敏文『徒然草 無常観を超えた魅力』中央公論新社、990円
隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』星海社新書、1078円
宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書、968円
ジャック・エルマン『社会学の言語』白水社（文庫クセジュ）、1027円
レイモン・ブードン『社会学の方法』白水社（文庫クセジュ）、1027円
好井裕明『差別原論—“わたし”のなかの権力とつきあう』平凡社新書、821円
辻村みよ子『ポジティブ・アクション—「法による平等」の技法』岩波新書、821円
山岸 俊男『社会的ジレンマ—「環境破壊」から「いじめ」まで』PHP新書、713円
下條 信輔『サブプリミナル・マインド—潜在的人間観のゆくえ』中公新書、864円
筒井淳也『仕事と家族』中公新書、842円
吉田裕『昭和天皇の終戦史』岩波新書、886円
安丸良夫『近代天皇像の形成』岩波現代文庫、1404円
坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、950円
吉見義明『日本軍「慰安婦」制度とは何か』岩波ブックレット、562円
内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、864円
徐京植『在日朝鮮人ってどんなひと?』平凡社、1512円
増田四郎『ヨーロッパとは何か』岩波新書、799円
羽田正『新しい世界史へ』岩波新書、842円
近藤和彦『イギリス史10講』岩波新書、972円
柴田三千雄『フランス史10講』岩波新書、842円
川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書、907円

杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波新書、886円
鶴見良行『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』岩波新書、821円
吉見俊哉『博覧会の政治学—まなざしの近代』講談社学術文庫、1,080円
山口定『ファシズム』岩波現代文庫、1400円
上野千鶴子『差異の政治学 新版』岩波現代文庫、1600円
苅谷剛彦『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社アルファ文庫、950円
加藤聖文『「大日本帝国」崩壊—東アジアの1945年』中公新書、886円
西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社新書、864円
松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社、1,700円
中北浩爾『現代日本の政党デモクラシー』岩波新書、864円

導入ゼミナールⅡ

マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1166円（日経BPクラシックス、2592円）
ゲオルク・ジンメル『ジンメル・コレクション』（ちくま学芸文庫）
マルセル・モース『贈与論』岩波文庫、1231円（ちくま学芸文庫、1296円）
宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫、864円
網野善彦『宮本常一『忘れられた日本人』を読む』岩波現代文庫、1145円
網野善彦『「日本」とは何か』講談社学術文庫、1274円
鬼頭宏『文明としての江戸システム』講談社学術文庫、1296円
安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社ライブラリー、1836円
安丸良夫『出口なお—女性教祖と救済思想』岩波現代文庫、1339円
吉田裕『日本人の戦争観—戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、1274円
テッサ・モーリス=スズキ『過去は死なない—メディア・記憶・歴史』岩波現代文庫、1469円
E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書、1962年、886円
C・ライト・ミルズ『社会学的想像力』ちくま学芸文庫、1512円
ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』ちくま学芸文庫、1566円
アマルティア・セン『貧困の克服—アジア発展の鍵は何か』集英社新書、756円
ハンナ・アレント『人間の条件』志水速雄訳、1620円
スタンレー・ミルグラム『服従の心理』河出文庫、1404円
J.Jルソー『エミール』（上）岩波文庫 1188円
エドワード・W・サイード『オリエンタリズム（上）（下）』平凡社ライブラリー、各1553円
スティーヴン・J・グールド『人間の測りまちがい—差別の科学史 上・下』河出文庫、各1500円
井上達夫『現代の貧困：リベラリズムの日本社会論』岩波現代文庫、1300円
遥 洋子『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ（ちくま文庫） 778円
J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会 決定版』岩波現代文庫、1598円
杉田敦編『丸山真男セレクション』平凡社、1600円
石牟礼道子『苦海浄土—わが水俣病—』（新装版）講談社文庫、745円
カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、562円
中村雄二郎『共通感覚論』岩波現代文庫、1,404円

ダンカン ワッツ『スモールワールド・ネットワーク: 世界をつなぐ「6次」の科学』増補改訂版、ちくま学芸文庫、1,728円
イーファー・トゥアン『空間の経験; 身体から都市へ』ちくま学芸文庫、1,512円
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1,067円
チャールズ・ホーマー・ハスキンス『大学の起源』現代教養文庫、513円
バリントン・ムーア『独裁と民主政治の社会的起源(上)(下)』岩波文庫、1,243円、1,584円
メアリー・ダグラス『汚穢と禁忌』ちくま学芸文庫
岩田正美2017『貧困の戦後史: 貧困の「かたち」はどう変わったのか』筑摩書房
山岸俊男『安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方』
吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー』河出文庫、1,320円
宮本常一『忘れられた日本人』岩波書店、990円
ダンカン・ワッツ、辻 竜平、友知 政樹(訳)『スモールワールド・ネットワーク: 世界をつなぐ「6次」の科学』筑摩書房、1,760円
宮崎市定『アジア史概説』中公文庫、1,430円
川崎修『ハンナ・アレント』講談社学術文庫、1,617円
上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書、1,012円
高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、924円
エミール・デュルケーム、菊谷和宏(訳)『社会学的方法の規準』講談社学術文庫、1,045円
デュルケーム/デュルケーム学派研究会『社会学の基本——デュルケームの論点』学分社、2,750円
マックス・ヴェーバー、富永祐治・立野保男(訳)『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波書店、1,111円
ミルグラム『服従の心理』河出書房新社(河出文庫)、1,430円
E.H.カー、清水幾太郎(訳)『歴史とは何か』岩波書店、946円
石牟礼道子『苦海浄土—わが水俣病—』講談社〔講談社文庫〕、607円
ジョエル・ベスト、赤川学(監訳)『社会問題とは何か』筑摩書房、1,980円
安丸良夫『神々の明治維新——神仏分離と廃仏毀釈——』岩波書店、880円
前田愛『近代読者の成立』岩波書店、1,452円
ミシェル・フーコー『フーコー・コレクション〈6〉 生政治・統治』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1,650円
ジョン・ロック『統治二論』岩波文庫、1,512円
カール・マルクス『経済学哲学草稿』岩波文庫、972円
マックス・ヴェーバー『職業としての学問』『職業としての政治』岩波文庫、475円
マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1,166円(日経BPクラシックス、2,592円)
エミール・デュルケーム『自殺論』中公文庫、1,008円
エミール・デュルケーム『社会学的方法の規準』岩波文庫
ヴェルナー・ゾンバルト『恋愛と贅沢と資本主義』講談社学術文庫、1,242円
ヴェルナー・ゾンバルト『ブルジョワ—近代経済人の精神史』講談社学術文庫、1,890円
柳田國男『明治大正史 世相篇 新装版』講談社学術文庫、1,458円
家永三郎『戦争責任』岩波現代文庫
大塚久雄『国民経済』講談社学術文庫、929円
梶村秀樹『排外主義克服のための朝鮮史』平凡社ライブラリー、1,512円
荒井信一『戦争責任論—現代史からの問い』岩波現代文庫、1,296円
ジョン・W・スコット『ジェンダーと歴史学』平凡社ライブラリー

アーリー・ホックシールド『管理される心—感情が商品となる時』世界思想社、3132円
ウィリアム・F・ホワイト『ストリート・コーナースサエティ』有斐閣、4104円
スピヴァク『サルタンは語る事ができるか』みすず書房、2300円
W・リップマン『世論(上)(下)』岩波文庫、799円・972円
エリザベート・バダンテール『母性という神話』ちくま学芸文庫、1400円
E・F・シュマッハー『スモールイズビューティフル 人間中心の経済学』講談社学術文庫、1,328円
エドワード・レルフ『場所の現象学』ちくま学芸文庫、1,296円
エドワード・サイド『知識人とは何か』平凡社 907円
上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』筑摩書房 734円
丸山真男『日本の思想』、岩波新書、842円
アンソニー・D・スミス『ナショナリズムとは何か』ちくま学芸文庫、1,404円